

調査速報

道西日本海(檜山海域)スケトウダラ資源調査結果

2012年 11月 6日

北海道立総合研究機構 函館水産試験場 (0138-57-6056)

2012年10月10日～17日に調査船金星丸を用いてスケトウダラ資源調査を実施したので、結果をお知らせします。調査速報は下記の函館水試ホームページからもご覧になれます。

<http://www.fishexp.hro.or.jp/exp/hakodate/>

- 今回の調査は荒天のため、檜山海域で予定していた調査ラインの7割の実施にとどまった。
- スケトウダラ魚群は奥尻島の東側と南側に分布が多く、すけとうだら延縄漁場となる沿岸域では少なかった。
- 魚群の分布深度はおよそ100～600mで、分布の中心は120～400mであった。
- 計量魚探による檜山海域全体の魚群反応量は、昨年を下回った。ただし江差以北(北緯41-50N以北)の反応量は昨年を上回った。
- 漁場周辺の80m以深の水温は、江差沖と上ノ国南沖は近年では2009年に次いで低かった。乙部沖の水温は昨年より低かったが、2008～2010年より高かった。

● スケトウダラ魚群の分布

・水平分布(図1,図2)

スケトウダラは主に奥尻島の東側の熊石沖、奥尻島の南側(奥尻海脚)などに分布が多く、延縄漁場となる沿岸域(図1の青い円の範囲)では昨年同様、少なかったです。近年、分布の多い松前小島堆周辺の分布は極めて少なかったです。ただし檜山南部の松前大島付近周辺は荒天のため調査できませんでしたので不明です。

・鉛直分布(図3)

スケトウダラの分布深度は、およそ100～600mでした。また、分布の中心は概ね120～400mでした。

● スケトウダラの魚群反応量(図2)

計量魚探による檜山海域全体のスケトウダラの魚群反応量は、2012年と同じ調査海域で比較すると、昨年の約6割と少なかったです。ただし奥尻海脚を含む江差以北(北緯41-50N以北)の海域の反応量は昨年の1.6倍でしたが、近年では低い水準でした。

● トロールで漁獲したスケトウダラの大きさ(図4)

相沼(熊石町～乙部町の間)沖で行ったトロール調査では、2006年級群(6歳魚)と思われる尾叉長40cm前後のスケトウダラが多く漁獲されました。なお2010年級群(2歳魚)と思われる20cm台の魚が僅かですが漁獲されました。

● 水温環境(図5)

スケトウダラ延縄漁場周辺の乙部沖、江差沖、上ノ国南沖で水温の観測を行いました。2007年以降で見ると、江差沖と上ノ国南沖の80m以深の水温は2009年に次いで低い水温でした。乙部沖の水深150～400mの水温は2007年以降では3番目に高い水温でした。

● 漁況の見通し

計量魚探調査で檜山海域全体の魚群反応量が昨年より少なかったため、今漁期の漁獲量は昨年を下回ると予想されますが、江差以北の分布は昨年より多いので江差以北の漁況は漁期前半では昨年を上回るか昨年並みに推移すると考えられます。



図1 調査海域全体の魚群の水平分布(平成24年10月)
 の大きさが魚群反応量 (S_A) を示す
 ○ : すけとうだら延縄漁場域
 - - - : 荒天で実施できなかったライン

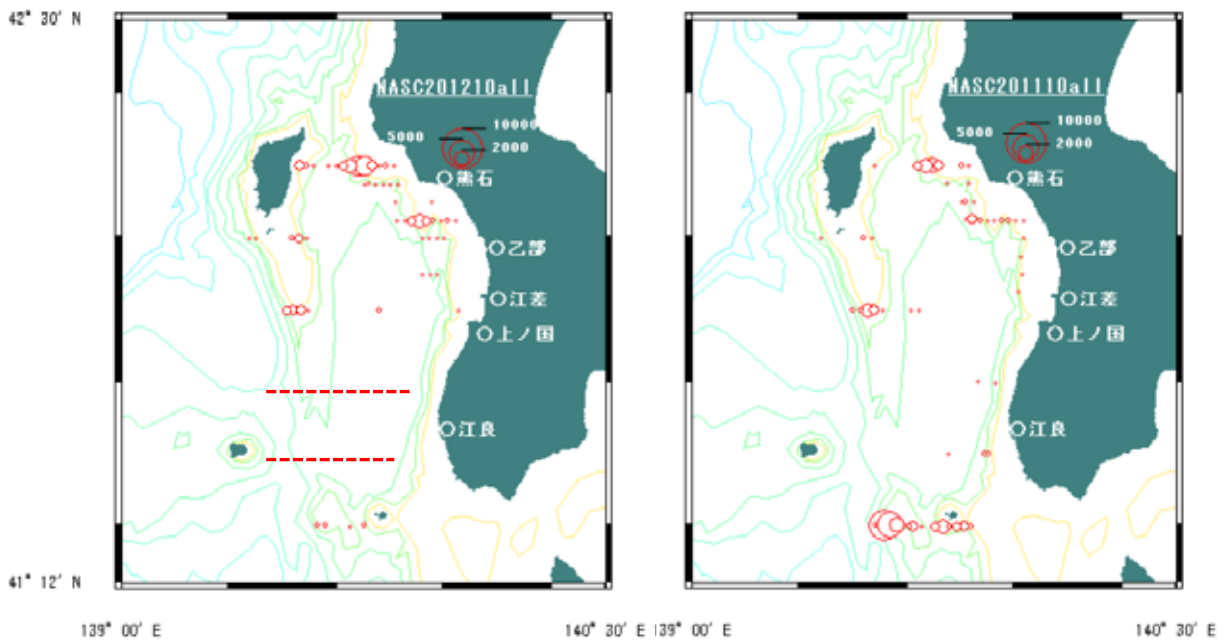


図2 魚群の水平分布の比較(左:平成24年10月, 右:平成23年10月)
 の大きさが魚群反応量を示す
 - - - : 荒天で実施できなかったライン

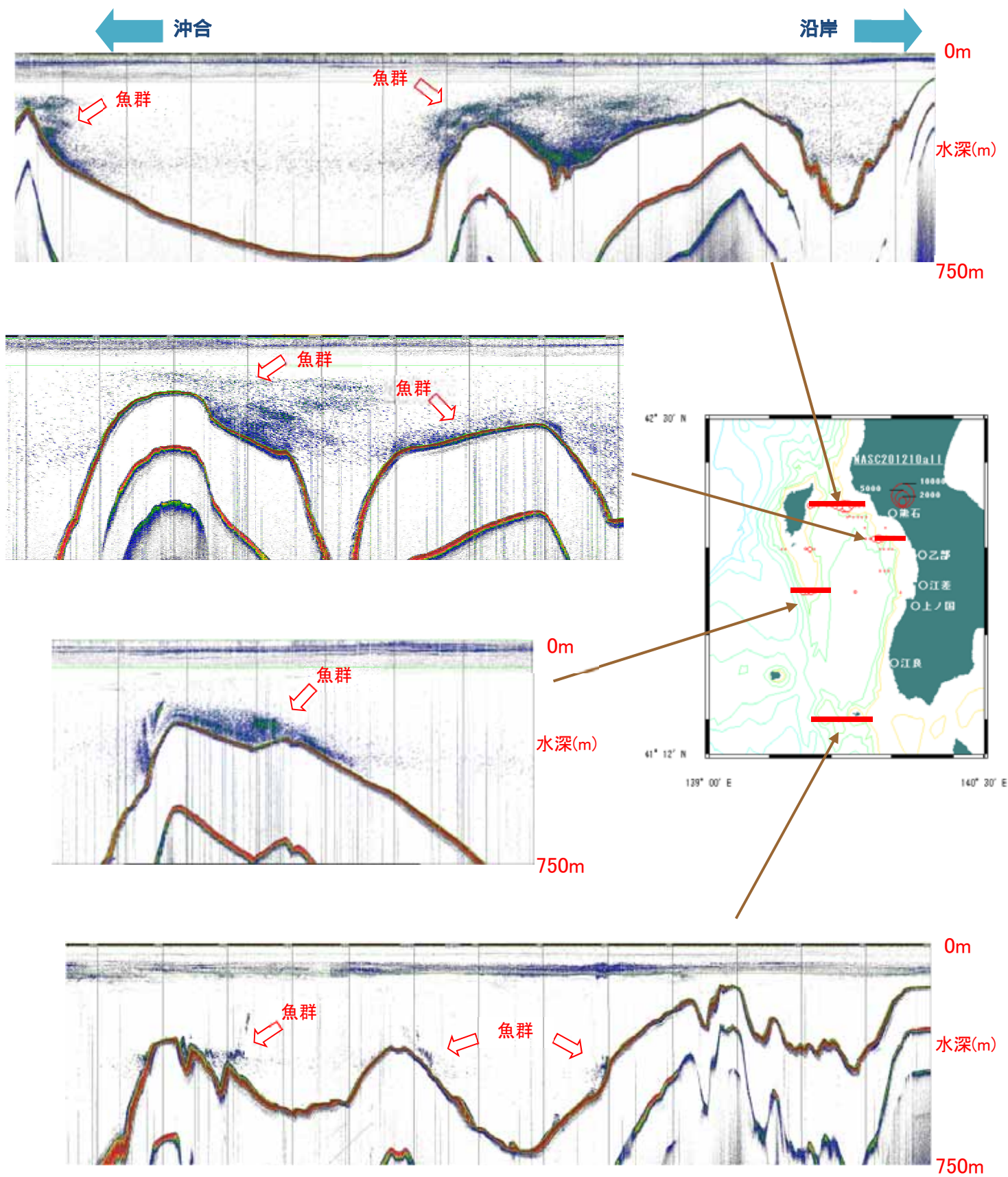


図3 各調査ラインにおける魚群の鉛直分布(夜間に調査を実施)
一番南のラインは日中の調査結果

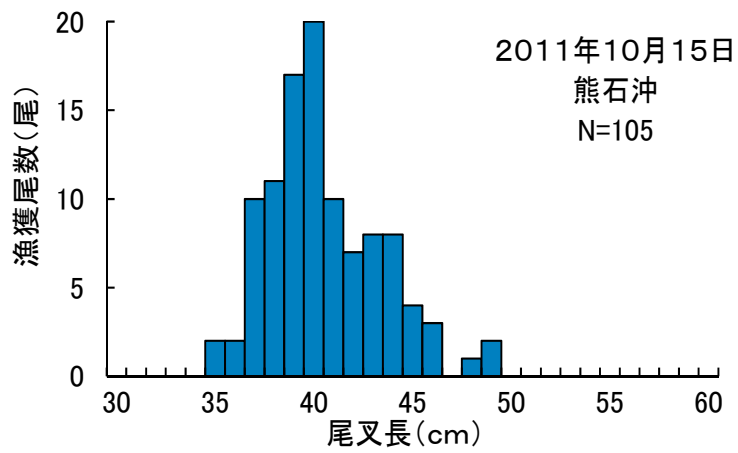
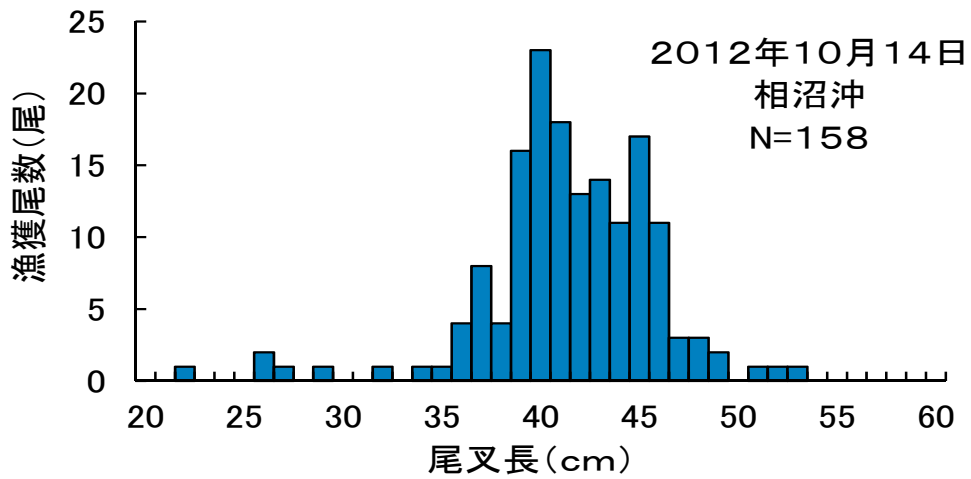


図4 着底トロールで相沼沖で漁獲したスケトウダラの大きさ
 (上: 2012年 下: 2011年)
 2011年は相沼沖で実施していないので熊石沖で比較
 相沼; 熊石町~乙部町の間

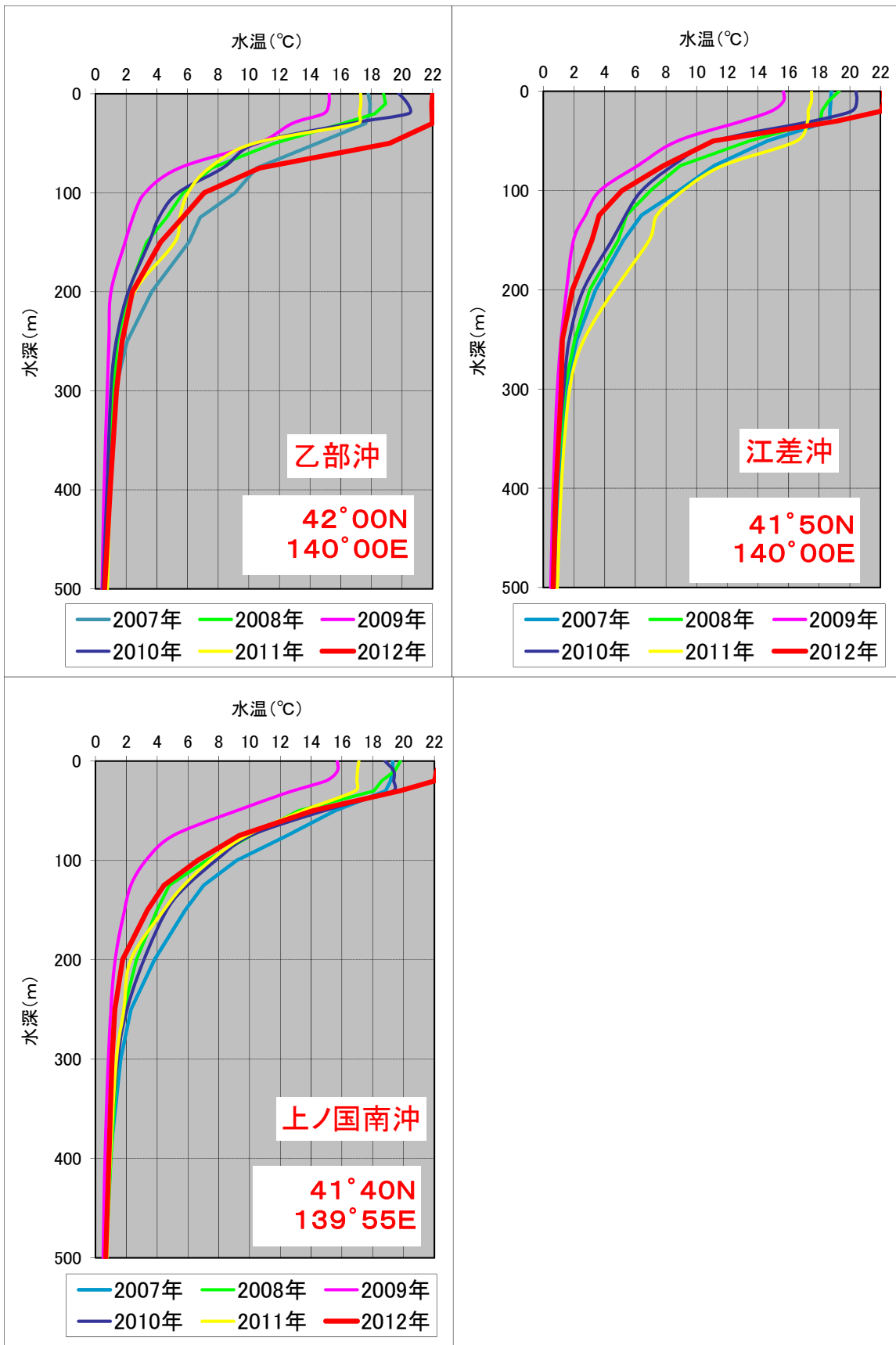


図5 乙部沖(左上), 江差沖(右上), 上ノ国南沖(左下)の水温分布